

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会議名	第 1 1 回姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会
2 開催日時	令和元年 1 2 月 1 7 日（火曜日） 1 5 時 0 0 分～1 5 時 5 5 分
3 開催場所	姫路市役所 1 0 階 第 2 会議室
4 出席者	（出席者） 姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員 9 名 （事務局） 教育長、教育次長、教育総務部長、学校教育部長、生涯学習部長、 総務課長、教育企画課長、学校施設課長、教職員課長、学校指導課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人 5 名
6 次第	1 開 会 2 挨 拶 3 答 申 4 謝 辞 5 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	1 開会 第 11 回姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会を開会する。
教育長	2 挨拶 (教育長挨拶) 委員の皆様においては、御多用にもかかわらず、御出席いただき感謝申し上げます。 平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただいております、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。 さて、本審議会は平成 30 年 6 月 29 日に第 1 回を開催してから、2 年間 10 回にわたり、少子化に向けた活力ある学校づくりについて、様々な御意見を出していただきながら、審議を重ねていただいた。そして、前回までで、方針案としてまとめていただくことができた。 本日は、これを答申としていただくことで、本審議会の最終回としたいと考えている。よろしくお願いいたします。
事務局	会議成立報告
会長	(公開可決の決定) 本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし) 異議なしと認めて公開とする。
会長	(第 10 回会議録の確認) 第 10 回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。(意見なし) 一応、この場で前回の会議録について委員の了承を得たことにする。 よろしいか。(全委員了承) 会議録として決定する。 市政情報センターやホームページ等への公表をよろしくお願いいたします。
会長	3 答申 答申に当たり、前回からの修正点等について事務局から説明をお願いします。

事務局	資料「姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針について（答申）」を用いて、前回からの修正部分について説明
会長	ただ今、事務局から前回からの修正点について説明があったが、質問はないか。 （質問なし） それでは、本日お配りしている「姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針について（答申）」を答申とするが、答申の前に、委員から一言ずついただきたい。
委員	第1回審議会から参加している。非常に良く練られたものになった。この答申はマスタープランだと思う。これを基にこれから姫路市がどのような方向で教育行政を進めていくのか。そういう方向性を示すバイブルになると思う。 ただ、これはあくまでスタートラインに着いたところである。これから教育委員会が手腕を発揮し、地域とどういう格好でコンタクトを取りながら進めていくのかという大きな宿題が残っている。 教育委員会と連合自治会で相談していきながら、ベストな方向でスタートを切りたいと思っている。ボタンを掛け違って、最後は大きな問題が残ってしまったということがないようにするために、色々な課題を想定しながら、答申を基にした進め方をしっかりと議論して、ある程度イメージしてから地域に出ていくのがベストであると思う。非常に良く練られた答申だと思っている。
委員	本審議会は教育に関する審議会であるが、その結果によって、学校が統合になったり、存続になったり、あるいは分離になったりするといった、地域の未来を左右する課題と表裏一体のものである。 学校において児童生徒数が少ないことによる弊害という議論が随分あり、確かに周りで見聞きすることもそういう側面は否定できないが、児童生徒が少ないからすなわち学校を無くしていいのかと言うと、決してそうではない。 自治会をはじめ地域にとって今後も次の世代を生んで育てていくためには、小学校、中学校の存在は欠かせないものである。逆に言うと、小学校が続く、続かないは地域が決めることである。それを教育委員会、地域住民、さらに審議会に参加した私たちを含めて応援していければという方向性を示した答申である。ぜひ教育委員会と、地域と、私たちも含む形で子供たちにとってより良い学校をつくっていくことができれば

	ばと思っている。
委員	前任者から引き継ぎ、第8回審議会から参加している。短い期間ではあったが、この審議会において色々な視点での考えを聞かせてもらった。現場を預かっている者として考えさせられた。 学校現場はまず子供中心であり、その背景には大勢の保護者、地域住民がいる。その地域と一体となった学校づくりをしっかりとしていく上で、学校がまず頑張らなければならないし、学校を取り巻く環境について色々と地域からの支援が必要となる。学校だけの教育は成り立たない。今後課題等が出てくる場合は、答申をベースにして地域に支援してもらいながら学校現場として考えていきたい。
委員	2年間お礼申し上げます。会長を中心に良い議論ができたと思う。私からはこの2年間言い続けてきたことをまとめて話したいと思う。 一つは、憲法に規定された教育の機会均等をしっかりと保障していくべきである。学校規模の大小に関わらず、小規模校には支援が必要であるし、大規模校は活力があって良いということではなくて、大きいからこそなかなか動きにくい実態があるので、そういった所へしっかりと支援をしていくべきである。 二つ目は、第1回審議会で提起させてもらったものであるが、学校とは誰のものなのかということである。現在学校に通っている児童生徒あるいは保護者は当然であるが、その学校を卒業して地域に生活している人々のものでもあるだろうし、これからその学校へ入学してこようとしている子供たち、あるいは保護者のものでもあると思う。そのため、現在その学校にいる者だけで決して考えるべきものではない。幅広い人の意見に耳を傾け、考えていくべきであると思う。 最後に、私は連合を代表して参加している。姫路はものづくりの街である。非常に大きな物から小さな物まで色々作り、成り立っている街である。ものづくりの基本は人づくりである。姫路で育った子供たちが姫路のものづくりに携わっていく。これはとても大事なことである。姫路市教育振興基本計画の中でも謳われていたように、ふるさと姫路を大事にする。一旦街を出て行ってもまた帰ってくる。そういった街づくりに携わる子供たちの姿勢、態度を育てていく教育であってほしいと願っている。この適正規模・適正配置についても、そのようなものに関わる非常に大事なものだと思うので、審議会が終わった後も色々と一緒に考えていき、また提言していきたい

委員	いと考えている。本当に感謝する。 色々ここで議論させてもらって良かったと考えている。適正規模・適正配置という中で、本当にこの答申はある意味理想である。このようにできれば良いと思うが、5年、10年のスパンの中では子供たちはちょうど小学校、中学校という大事な時期なので、これに振り回されないように、子供たちの教育を受ける環境が適切であるかしっかりと見てもらいたい。 それから、PTAとしては当該学校だけに負担を掛けるのではなく、もっと皆でしっかりと現実を共有し、子供たちがこの学校、姫路で良かったと思える教育を続けていってもらいたい。
委員	私には小学生と中学生の子供がおり、私の地区は小学校が12学級に満たない小さな学校である。私たちが小学生だった頃の半分くらいの生徒数に今なっている。何かしら寂しくなったという感覚が元々あった。 今回、審議会に参加してこれからを考えるに当たって、寂しいという反面、中学校であれば数が少ないので、部活動等の選択肢がとても狭まっている状況である。先生の負担もかなり増えていると考ええると、生活環境が変わったとしても、一定規模の教育環境というのもとても大事である。あわせて、税金を含めた予算を執行しながら教育するという形でいくと、日本全体では少子高齢化が進んでいるので、一定の経済的な合理性も含めて考えていかなければ、将来にわたって子供たちにしわ寄せがいくのではないかということで、教育の面で持続可能な方法で保てれば良いと当初思っていた。 審議会で皆の意見を聞きながら、地域の中にある学校という視点が当初欠けていたと思った。最終的には「地域とともにある学校」という視点を併せ持ちという面を考えながらどこを目指していくのかという話でまとめていると思うので、非常に良い機会を得たと感謝している。
委員	私も今年度から参加させてもらった。皆の今までの議論はとても素晴らしく、英知を結集してこの答申ができ上がったことを本当に素晴らしいと思っている。 これからがスタートであり、現場におろしていくに当たって、のりしろの部分というか、学校、地域、教育委員会、保護者それぞれがやるべきことの重なっている部分

	をなるべく広くして、個々に振り分けるのではなく、皆でのりしろを重ねながら進めていけば良いと思っている。 私自身も皆の意見を聞き、様々な立場から意見が交換できた。その目的は子供たちのためにという部分がぶれないように守っていかなければならないと思う。 今、非認知能力の大切さがよく言われている。相手のことを思う想像力、違う人とも折り合いを付ける力、最後までやり抜く力など、目に見えない力というのは小規模校又は大規模校だからこそというものではないが、見えない部分を耕す本物体験といったものを重視する教育がなされることを祈っている。私もそのようなエモーショナルな部分を耕していけるような教育を頑張っていきたいと審議会を通して考えさせられた。感謝する。
委員	皆が言うように、子供のためにどうするべきなのかと考えることは、大人として当たり前のことであり、地域コミュニティのこともそうである。 私もPTAをしていて子供が5人おり、その子供たちが地域の人に携わってもらい守ってもらい育っていく中で、大人として、保護者として、PTAとしてどうあるべきかと悩んだりもした。会議の中で皆が真剣に考えているとつくづく思った。 PTAとして、先生がどれほど子供のために頑張っているかという現場を見ることで、先生をどうやって我々PTA、保護者は助けていったら良いのか考えさせられたこともある。 この適正規模・適正配置についても、財政的に余裕がないから廃校にしようということではなく、どうすれば何とか守っていけるのか。適正規模・適正配置審議会を一生懸命やる中でまだまだ足りないことがあるとは思いますが、今のところは前に向いたと思っている。感謝する。
会長	答申そのものには大事な内容をまとめているが、これにどういう思いを乗せて答申するかということについて、委員からそれぞれ話してもらった。 それでは、本日お配りしている「姫路市立小中学校適正規模・適正配置について（答申）」を答申とし、教育委員会に提出したい。 ここで進行を事務局にお返しする。 （答申手交）

	会長から教育長に答申
教育長	皆様から、少子化に対応した活力ある学校づくりについて、姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の実施についてアドバイスや激励、また、審議会に御参加いただいての所感など、一言ずつでも頂戴できれば幸いである。
委員	審議会が終わり答申が出ることで、早速ここで出てきたような適正規模を下回る小学校について、保護者からも相談を受けている。今後の、特に小規模特認校制度を導入するまでのスケジュールを確認させてほしい。
事務局	本日、答申をいただいたので、こちらを基に今年度内に教育委員会で基本方針を策定したいと考えている。令和2年4月以降、地域に説明を行い、その後、今後10年間を見通した中で、小学校で1～5学級及び小・中学校で31学級以上の規模がおおむね5年以上続くようであれば、学校地域協議会の設置をお願いする。その中で、学校、保護者、地域住民がどういった取組方策をとるのかを協議してほしい。協議についてはおおむね1年以内で合意形成を図るとしており、その協議結果を踏まえ、教育委員会が実施計画を作るという形を考えている。
委員	令和2年度は、説明と学校地域協議会設置を地域で検討する年で、令和2年度中に学校地域協議会を設置し、設置後1年間で方針決定までいくということか。 そして、令和3年度中に方針が決まり実施計画の策定まで行い、最短で令和4年度から小規模特認校制度が運用されると理解した。
委員	今聞かせてもらったが、今年度内に基本方針を策定し、令和2年4月から地域に入るという話だった。この間に何かがあるような気がする。できれば、策定段階のものを、例えば婦人会、老人会、自治会、PTAといった地縁団体のリーダーを集めて説明会など行い、ある程度話をした上で次のステップである地域説明に進んだ方が良く考える。ぶっつけ本番で地域に入り、地域住民の意見がどんどん出てきて収拾がつかなくなり、教育委員会が立ち往生してしまうと困る。 その辺りを危惧するので、審議会とまでいなくてよいので、ある程度メンバーを集めて、これで地域に出して良いか話合いの場を設ける。例えば連合自治会には代表

	が15人いる。せめてそこで、これなら地域に出しても良いという感触を得てから地域に出た方が良いと思う。
委員	地域によって差があるように思う。小規模特認校制度の導入に向けて走り出している地域もあれば、今から学校を残すか否かの議論を始める地域もある。一律ではない。
委員	学校によってそれぞれ違う。この地域はこのような話し方をしなければならない等その辺りまで想定するようにつくり込みをしてから地域に入った方が良いような気がする。 一回收拾がつかなくなり、修復してから再スタートとなるとロスタイムが多いだろうし、多大な労力も掛かる。できるだけスムーズなスタートが切れるような格好で取り組んでほしいと思う。一緒に相談してやっていきたい。
教育長	貴重な意見を感謝する。
委員	この取組をきっかけに、地域住民が学校をどうするのか、地域をどうするのかなど当事者意識を持つ良い機会にしたいと思う。
委員	一気に話をすると色々と意見が出てくると思う。校区人権学習でも、リーダー学習をしてから地域のそれぞれの自治会の中で人権の学習をしていくように、ステップを踏むという形が望ましい。 学校についても、例えば校長会などでしっかりと周知をしていくとともに、学校現場の先生にも十分伝わるようなステップを踏んでから広げていく方が良いと思う。
教育長	学校に知らせる機会を持ちたいと思う。
委員	今年のキーワードはワンチームであったが、教育委員会だけが考え悩むのではなく、市全体でやっていくという姿勢が大事であると思う。お金も掛かることなので、色々な立場の人がそれぞれで頑張ってもらい、姫路の未来に関わることであるという意識を持ちながらやっていくことが大事だと思う。 また、取組については、やはり丁寧に慎重にやっていくべきであると思う。

委員	P T A会長はずっと単年で変わっていたが、私は3年務めさせてもらった。長期にわたってP T A会長を務めたことで私の校区の自治会と徐々にコミュニケーションが取れるようになった。地域コミュニティに加わるようになって、意見をきちんと言えるようになった。これからもこのような関係性を保ちたいと思っている。 私の校区はまだ適正規模の学校であるが、これから変わってくるかもしれない。その時に審議会に参加した経験を基に意見できれば良いと思う。
委員	皆の言うとおりで、前もって少し準備しておいたり、心づもりを地域に促したりすることはとても大事であると思う。今回のことは、教職員、地域住民、P T Aが正面から地域のことを考える機会になると思う。そのことによって、逆に活力や一体感が生まれてくるのではないかとも思い、とても期待している。感謝する。
委員	私は小さい村に住んでおり、青年団、消防団、小さな秋祭りや屋台などがある地域である。人数が半分くらいになっているため、段取りをする人たちが大分少なくなっている。秋祭りであれば、自治会が青年団のしていたことを手伝うなど工夫している。 この話は学校教育のことではあるが、P T Aの人を中心というよりは、地域全体に関係する人の話や意見を参考にしながらやっていくのが良いと思う。 もう一つは、地区によって異なるのかもしれないが、P T A役員は最高学年の保護者になる場合が多い印象がある。それでいくと、最高学年であるため、自分の子供の学校教育が一旦終わりとなる人は、それから先の話がしづらい部分があると思う。答申の中に入れてもらっているが、就学前の人の保護者も含めて意見をまとめられるような形が、地域をどう考えていくのかと併せて、教育をどう考えるかに持って行きやすいと思う。 学校地域協議会を作る、もしくは作る前の話をするような土壌をどのように整えるかという部分がポイントだと思う。また、会議中にも話があったが、早めにこの動きで考えていこうという発信が重要になってくると思う。
委員	私も何校か意見をいただいている。1～5学級以下又は31学級を超える学校ではなく、6～7学級の学校に関しては、学校地域協議会の設置は希望する場合となっているが、誰が希望して、どう設置し、誰が主導するのか。地域の人にすれば「6～7学級であるため来年学校地域協議会を設置しなくても、そのうちにすれば良いのではな

	いか。」と考え、PTAにすれば「そろそろ学校地域協議会を設置して話し合いをしていただいた方が良くはないか。」と考えるなど温度差が大きい。この2～3年は大丈夫だと考え、ふと気が付けば5年、10年経って大変な状況になっていることがあると思うので、この方針を学校現場や地域の人に伝え続けていくことが大事であると思う。 この先5年、10年、教育現場で起こっていることを発信し続けていくことが大事であると思うので、その辺りを本当にできるだけ細かく伝えてもらえればありがたいと思う。 これからが勝負になると思う。頑張ってもらいたい。今後具体的な議論はしなければならないが、一から始めるわけではなく、答申を共通理解の土台として生かしてもらいたい。 少子高齢化により学校の数が減らざるを得ない。この10年で小、中、高校がかなり減った。これからは大学が減っていく。しかし、中身的には今まで以上のものとしていかなければならない。 今学校に来ている子供たちが力を付けていかなければならない。皆が力を付けて将来に向けて羽ばたいてほしい。そのために、学校の先生や保護者は当然ながら、自治会やPTAの皆と一緒にしなければならぬと思う。 皆がこれからそれぞれの立場で努力するための共通のベースである答申はできた。しかし、ここからが本番だと思う。皆一体となってコミュニティを支えていく。その中核の一つとして学校がある。 審議途中では個人的なことは言えなかったが、皆のそれぞれの立場はよく理解できる。先ほどこの場で話していただいた気持ちをどうか大事にもらい、姫路の街をより生き生きとしたものにするために、その中心に子供たちの教育をどのように当てはめていくか。頑張ってもらいたい。どうぞよろしくお願いします。
会長	4 謝辞 皆様のアドバイス、激励に感謝する。 先ほど答申をいただいた。平成30年6月29日の諮問以来、第1回審議会から本日の第11回審議会まで、長期間にわたり、市立小・中学校の望ましい学校規模及び将来における適正配置に関する基本方針の策定に当たり御尽力いただき、教育委員会を代表して、心より感謝申し上げます。 答申において、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けた取組に当たっては、

事務局	一つには学校規模により生じる可能性がある教育上の課題を解消する観点から、もう一つには新学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びを実現する観点から「教育的な視点」を第一に、また、「地域とともにある学校」の視点を併せ持ち、児童生徒の育ちにとって、より良い教育環境を作るために取り組むことが必要であるとされた。 また、取組を実施する段階においては、学校地域協議会において、「教育的な視点」を第一において、子供の育ちにとって、より良い教育環境を作ることを目的とすること、学校や行政のみならず、保護者や地域住民等においても、主体的に協議に参画すること、また新しい学校づくりに向けて、当該校区の課題やその改善点を話し合いながら、学校の将来ビジョンを保護者や地域住民等と構築し、共有すること、これらを基本姿勢として、協議・検討を行っていくとされた。 これらは、少子化に向けた活力ある学校づくりに向け、基本となる重要な考え方であると感じている。 本日をもって、審議会は終了となるが、会長、副会長をはじめ、委員の皆様におかれては、たくさんの貴重な御意見を頂戴し、感謝申し上げます。 この後、本日いただいた答申を基に、教育委員会として基本方針を策定し、委員からの話にあった「子供のために」というキーワードのとおり、少子化に向けた活力ある学校づくりに向けて、その取組に邁進していく所存である。 今後、基本方針を実施していく際には、委員の皆様の一層のお力添え、御協力をよろしくお願い申し上げます。 (事務連絡) 2点連絡させていただく。 まず1点目は今後の予定だが、このあと、答申を元に教育委員会として今年度内を目途に基本方針を策定する。策定した基本方針については、委員の皆様にお届けしたいと考えている。 2点目、本日の会議録については、近日中に事務局で会議録案を作成し、委員の皆様へ郵送するので、内容の確認をお願いしたい。 詳細については、郵送する文書でお知らせする。 5 閉会 以上で姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会を終了する。
事務局	